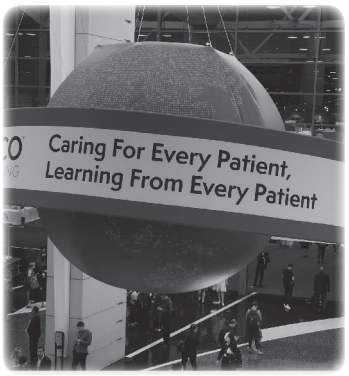
海外がん医療情報リファレンス by JAMT
NEWS LETTER
JAMT
Japan Association of Medical Translation for Cancer
日本癌医療翻訳アソシエイツ
https://jamt-cancer.org/
2019.4-2020.3 Vol.11
一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ　〒160-0022東京都新宿区新宿2-15-22 Landwork新宿ビル8F　https://jamt-cancer.org　TEL/FAX　03-3356-5710

JAMT設立10周年を迎えました



―vol.11の紹介―

1. ごあいさつ ……P1
2. 「海外がん医療情報リファレンス」活動報告 …P2
3. がんセミナー・抄読会・字幕翻訳勉強会 ……P4
4. 監修者から ……P6
5. 翻訳者から ……P8
6. 副理事長から ……P9
7. スタッフから …… P10
8. 事務局からのお知らせ …… P12
9. 組織概要 …… P12
10. 協賛企業 …… P12

1. ごあいさつ

1995年から96年にかけて米国テネシー州ナッシュビルのバンダービルト大学メディカルセンターに滞在する機会がありました。

あるがん患者の家族からの質問に、一般的なことを答えたところ、「そんなんじゃなくて、この患者にどの治療法がいいのか、あなたの意見をききたいのよ。専門家なんでしょう！」との厳しいご指摘をいただきました。この患者ご家族の病に向き合う真剣さと専門医を尊重する姿勢を強く感じました。

医学知識、情報も個々の患者に応用して初めて生きてきます。最新の医学情報を社会が共有し、患者・家族と医療従事者がその患者における情報の価値を話し合うことが大切だと思います。

本年もJAMTは信頼できる医学情報をお伝えしていきます。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ　理事長　久保田 馨

2.『海外がん医療情報リファレンス』活動報告

2019年 4月	13日	JAMT第8回抄読会／久保田馨先生（日本医科大学付属病院　がん診療センター長）
5月	11日	JAMT第9回抄読会／尾崎 由記範 先生（虎ノ門病院 臨床腫瘍科）
	31日～6月4日	ASCO患者アドボケート参加（日本癌治療学会PAL助成）野中副理事長
6月	2日	JAPAN CANCER SURVIVORS DAY 2019　ブース出展
	8日	JAMT第10回抄読会／辻村 信一 先生（メディカルライター、CXメディカルジャパン）
	21日～22日	第24回日本緩和医療学会学術大会（PAL患者家族参画プログラム1名以上参加）
7月	7月13日	JAMT第11回抄読会／東 光久 先生（福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー白河厚生総合病院、）
	11日～13日	第27回日本乳癌学会学術総会（JAMT会員４名以上参加）
	18日～20日	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会ペイシェント・アドボケイト・プログラム（4名以上参加） 京都懇親会開催
8月	10日	JAMT第12回抄読会／北丸 綾子 先生（実務翻訳者、医薬・バイオサイエンス）
9月	14日	JAMT第13回抄読会／大野 智先生（島根大学付属病院臨床研究センター）
	23日	第１回理事会開催
	26-28日	第78回日本癌学会学術総会
10月	16日	日本医科大学付属武蔵小杉病院キャンサーボード　3名参加
	24-26日	57回日本癌治療学会　がん患者・支援者プログラム（JAMT会員4名以上参加）
11月	2日	JAMT10周年がんセミナー「がん治療の変遷とがん予防」 講師：久保田馨先生（日本医科大学付属病院　がん診療センター長） ミニ抄読会「がん検診と行動経済学～乳がん検診での臨床研究から～」 講師：東　光久先生（福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー　白河厚生総合病院） 学会参加報告：野中副理事長・JAMT会員白石里香・佐復純子理事 用語集～ワードマクロの使い方～：JAMT会員鳥居塚千恵
	9日	JAMT第14回抄読会／中村能章先生（国立がん研究センター東病院 消化管内科）
12月	6-8日	日本肺癌学会学術集会
	14日	JAMT第15回抄読会／中村奈緒美先生（田園二子クリニック、訪問診療医師）
2020年 1月	11日	JAMT第16回抄読会／北丸綾子先生（実務翻訳者、医薬・バイオサイエンス） 字幕翻訳勉強会／寺田真由美先生（字幕指導）
2月	8日	JAMT第17回抄読会／榎本 裕先生（三井記念病院　泌尿器科）
	29日	JAMT第18回抄読会／原 文堅先生（がん研有明病院 乳腺内科）
3月	1日	2019年度 第1回総会／第2回理事会開催

ボランティアサイトでのがんの情報提供

「海外がん医療情報リファレンス」主な英文記事の発信元

●米国国立癌研究所（NCI）　-NCIニュース、ファクトシート、薬剤情報（A-Z）
●FDAニュース　- 新薬承認と安全性報告
●学会ニュース　- 米国臨床腫瘍学会（ASCO）、欧州臨床腫瘍学会（ESMO）、米国癌学会（AACR）のプレスリリース、
●大学 / 施設ニュースMDアンダーソンがんセンター、ジョンズホプキンス、スローンケタリング、ダナファーバーがん研究所
●米テキサス大学MDアンダーソンがんセンター専門家向け月刊ニュースレター「Oncolog」（8月で終了）
●英国医療サービス（NHS）など
●サンアントニオ乳がんシンポジウム（SABCS）

患者団体他への協力

- ●海外ネットワーク「コクラン共同計画」翻訳プロジェクト協力
- ●日本対がん協会主催「JAPAN CANCER SURVIVORS DAY 2019」ブース出展5名参加
- ●IKCC患者サーベイアンケート調査結果日本語版和訳・要約 榎本先生ほか4名参加
- ●卵巣がん患者体験者の会スマイリー協力
- ●第2回ISPACCOSシンポジウム協力

JAPAN CANCER SURVIVORS DAY 2019に参加して

JAMT 鳥居塚千恵

6月2日国立がん研究センターで開催されたキャンサーサバイバーズデーのJAMTブースでお手伝いさせていただきました。その際、数年前に乳がん・HER 2と診断を受け、担当医から抗がん剤とハーセプチンの併用をすすめられた方とお話する機会がありました。

抗がん剤の治療を受けたくなかったその女性は、当時日本ではまだハーセプチン単独の治療例がなかったため、ネットで検索し、「海外がん医療情報リファレンス」で米国でのハーセプチン単独の治療例の記事を見つけたそうです。彼女はその記事について担当医に相談したところ、担当医もたまたま同じ記事を読んでいたこともあり、ハーセプチン単独の治療を受けることができたそうです。「このサイトのおかげで、希望通りの治療ができ、今は元気になりました！ありがとうございました！どうかこれからも続けてください。」と言ってくださいました。

普段私たちの仕事がエンドユーザにどのようにとらえられているか耳にする機会は少ないですが、この日は書ききれないほど多くの方からの「ありがとう」をいただくことができました。期待してくださっている多くの方の思いに触れ、身の引き締まる思いです。

「海外がん医療情報リファレンス」閲覧ランキング

ウェブサイトでは約300記事以上、NCI動画6本を公開し、今年も数多くの最新記事を提供することができました。
また、新たにサンアントニオ乳がんシンポジウム（SABCS）リリースの翻訳が開始されました。〈2019.1.1～12.31まで〉

	記事タイトル
1	女性が気をつけたい婦人科がんの10の症状
2	閉経後の出血と子宮体がんの関係に関する研究
3	リンパ腫患者の余命は、診断後の無再発期間2年経過で通常の平均余命にまで回復
4	流行のケトジェニック食についてわかっていること、わかっていないこと
5	アルコールとがんについて知ってほしい10のこと
6	がんのリスクを低減するための食品36選
7	ヒトパピローマウイルス（HPV）とがん
8	炎症性乳がん
9	癌患者の終末期ケア
10	胃酸逆流治療薬の長期服用と胃がんリスク増加が関連
11	HPV（子宮頸がん）ワクチン:親が子供に接種させない本当の理由
12	虫垂がんは他の消化器がんと異なる遺伝子特性をもつ
13	非浸潤性乳管がん（DCIS）診断後の乳がんによる死亡リスクは低い
14	コーヒーが、乳がん治療薬タモキシフェンの効果を高める可能性
15	健康な男性におけるヒトパピローマウイルス（HPV）口腔内感染の新たな知見
16	ビタミンDサプリメントは、がんの発生率を低下させない
17	乳房ページェット病ー稀な疾患だが、悪性腫瘍を見落とすことも
18	専門医に聞こう:乳癌に対する食事と運動の効果
19	BRCA1、BRCA2遺伝子:がんリスクと遺伝子検査
20	若年甲状腺がんでもリンパ節転移あれば悪性度が高い

学会参加報告

第24回日本緩和医療学会学術大会
日時：6月21～22日　場所：パシフィコ横浜
PAL患者家族参画プログラム（JAMT会員1名以上参加）

第27回日本乳癌学会学術総会
日時：7月11～ 13日
場所：京王プラザホテル／新宿NSビル　（JAMT会員4名以上参加）

第17回日本臨床腫瘍学会学術集会
日時：7月18～20日
場所：国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都（7名以上参加）

日本医科大付属武蔵小杉病院キャンサーボード
日時：10月16日
場所：日本医科大学武蔵小杉病院
（JAMT会員3名参加）

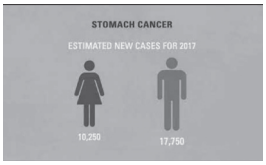
第57回日本癌治療学会学術集会
P9下をご参照ください

第29回日本乳癌検診学会学術総会
日時：11月8～9日
場所：福井商工会議所　福井県県民ホール
福井市地域交流プラザ　福井市にぎわい交流施設
「職域検診：受診者の立場から見た精度管理」寺田真由美

2019年に公開されたNCI動画

大腸がん検診ってどんなもの？

末梢血幹細胞移植のドナーとなる

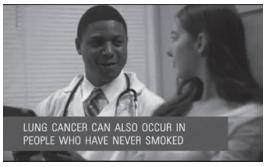


知っていますか？：希少がんの統計

NCI-CONNECT「脳・脊髄希少がんネットワーク

ローゼンバーグ博士による免疫療法研究

免疫療法の臨床試験:スー・スコットの物語



知っていますか？～肺・気管支がん ～

3.がんセミナー・抄読会・字幕翻訳勉強会

JAMT設立10周年記念がんセミナー

日時：11月2日（土曜日）　場所：JAMT会議室

【基調講演】「がん治療の変遷とがん予防」

講師：久保田馨先生（日本医科大学付属病院 がん診療センター長）

近年大きく進歩したがん治療の変遷を辿り、細胞性障害性抗がん剤の時代から、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬に至るまでの歴史、および遺伝子パネル検査を用いたゲノム医療についての考察をいただきました。また、アトゥール・ガワンデ著「死すべき定め」から引用を例に医師と患者とのコミュニケーションの本質や、禁煙をはじめとしたがんリスクを減らす生活習慣についても講義いただき、それぞれが理解を深めることができました。

【ミニ抄読会】「がん検診と行動経済学～乳がん検診での臨床研究から～」

講師：東　光久先生
（福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー　白河厚生総合病院）

行動経済学とはなにか、興味深い内容をご紹介いただいたあと、行動経済学に基づき個別化対応することで乳がん検診率がアップするという論文より、臨床の疑問、PICOに基づく批判的吟味のご講義とともに翻訳についてご指導いただきました。

論文「Cost-effectiveness of a tailored intervention designed to increase breast cancer screening among a non-adherent population: a andomized controlled trial（Yoshiki Ishikawa）」

【学会参加報告】

開かれた学会に向け、各医学会は患者アドボケートにも積極的な参加を呼び掛けています。野中副理事長、JAMT会員の白石さんや佐復理事より、学会への参加方法について詳細な説明がありました。また参加したセッション、得たキーワードの解説がありました。

「学会参加をすることで、いま注目されていることを肌で感じることができる。患者・市民参画（PPI）の推進を背景にして、医学研究・臨床試験に関する知識を持った患者・市民が今後ますます必要とされる中、私たちもJAMTボランティアに参加することで医療をよりよくしていきたいと思う」との言葉で締めくくられました。

JSMOにて

●野中副理事長
　米国臨床腫瘍学会（ASCO）2019患者アドボケート参加（日本癌治療学会PAL助成）報告
●JAMT会員 白石里香さん
　第17回日本臨床腫瘍学会学術集会JSMO2019
　Patient Advocate Program：PAP参加報告
●佐復純子理事
　第24回日本緩和医療学会学術集会PAL（患者・家族枠）参加報告
　第27回日本乳癌学会学術集会（患者・家族枠）参加報告
　第17回日本臨床腫瘍学会学術集会（PAP）参加報告

JSMO懇親会にて

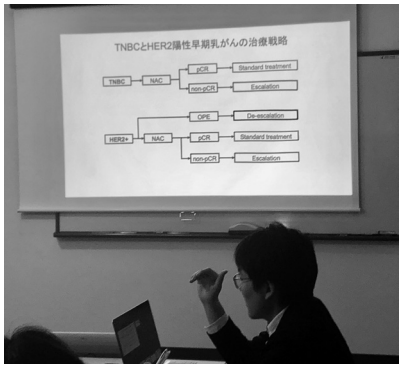
「用語集マクロ」の紹介

翻訳コーディネーター　**鳥居塚千恵**

翻訳者には欠かせない用語集をMicrlsoft　Word上で簡単に検索、できるマクロの紹介がありました。
資料をご希望の方はJAMT事務局（office@jamt-cancer.org）までお問い合わせください。

セミナー後にはJAMT役員より出席者へ10周年記念の花一輪が贈呈されました。各自自己紹介および参加スタッフの林さん、関口さんからは感謝と日ごろの報告が述べられました。10周年記念懇親会（@ラ・ボエム 新宿御苑前）では、皆さんそれぞれの席で会話が弾み、JAMTの親睦と結束を深める会となりました。

抄読会2019



JAMT監修の先生方にご専門分野の論文をピックアップしていただき、少人数で翻訳の演習をしています。 論文の背景や参考文献の調べ方、数値や統計の読み取り方などをご講義いただき、よりよい翻訳のための知識を、現在ご活躍中の先生方から直接学べるJAMT独自の貴重な機会となっています。

最新の内容なので調べても情報が少なく、受講生の方々課題箇所の訳出には苦労されるようですが、大変わかりやすく解説していただき、質問に丁寧に答えていただく中で深く理解が得られたと感想をいただいています。JAMTボランティア翻訳者会員向けにはサークルスクエアよりレポートを配信しています。

●3月9日　後藤　悌先生
（国立がんセンター中央病院　呼吸器内科）
Estimation of the Percentage of US Patients With Cancer Who Benefit From Genome-Driven Oncology

●4月13日　久保田　馨　先生
（日本医科大学付属病院　がん診療センター長）
Durvalumab after Chemoradiotherapy in Stage III Non-Small-Cell Lung Cancer

●5月11日　尾崎 由記範 先生（虎ノ門病院 臨床腫瘍科）
Trastuzumab Emtansine for Residual Invasive HER2-Positive Breast Cancer

●6月8日　辻村 信一 先生
（メディカルライター、CXメディカルジャパン）
Efficacy of osteoporotic treatment in patients with fresh spinal vertebral compression fracture on pain, ADL, QOL, bone metabolism and fracture-healing-In comparison weekly teriparatide prep aration with bisphosphonate-

●7月13日　東 光久 先生（白河厚生総合病院）
Early Palliative Care for Patients with Metastatic Non-Small-Cell Lung Cancer

●8月10日　北丸綾子先生
（実務翻訳者、医薬・バイオサイエンス）
Suppression of Exosomal PD-L1 Induces Systemic Anti-tumor Immunity and　Memory

●9月14日　大野 智先生（島根大学付属病院臨床研究センター）
Complementary Medicine, Refusal of Conventional Cancer Therapy,and Survival Among Patients With Curable Cancers

●11月9日　中村能章先生
（国立がん研究センター東病院　消化管内科）
Analysis of Plasma Cell-Free DNA by Ultra deep Sequencing in Patients With Stages I to III Colorectal Cancer

●12月14日　中村奈緒美先生（田園二子クリニック）
Selective inhibition of FLT3 by gilteritinib in relapsed or refractory acute myeloid leukaemia: a multicentre, first-in-human, open-label, phase 1–2 study

●1月11日　北丸綾子先生
（実務翻訳者、医薬・バイオサイエンス）
Randomized Trial of Three Anticonvulsant Medications for Status Epilepticus

●2月8日　榎本 裕先生（三井記念病院　泌尿器科）
Nivolumab plus ipilimumab versus sunitinib in first-line treatment for advanced renal cell carcinoma: extended follow-up of efficacy and safety results from a randomised, controlled, phase 3 trial

●2月29日　原 文堅先生（がん研有明病院 乳腺内科）
Overall Survival with Palbociclib and Fulvestrant in Advanced Breast Cancer

字幕翻訳勉強会

日時：2020年1月11日（土曜日）
場所：JAMT会議室
講師：寺田真由美先生（字幕指導）
課題：大腸がん検診ってどんなもの？
挑戦課題：知っていますか？シリーズ「がんのリスク要因」

「海外がん医療情報リファレンス」では、字幕翻訳勉強会に参加いただいた方にご協力いただき、NCI公開の動画に日本語字幕をつけて公開しています。

今年度は「グレイズ・アナトミー」や「パイレーツ・オブ・カリビアン」などで活躍されている寺田先生より「読む」より「見て」わかりやすい字幕内容にするコツを教えていただきました。

動画音声が始まると表示され、音声が途切れると消える字幕は、人が１秒に認識できる「1秒4文字」に従って、使える文字数を計算した上で翻訳します。また1画面に表示できる行数、1行に納められる文字数にも限りがあり、■表記ルールの理解、■英文スクリプトのテキスト化、■ハコ切り、スポッティング、■Subtitle WorkshopやYouTubeなどの翻訳ツールを使った字幕編集など字幕翻訳の基本を順にご説明いただき、NCIの「Colorectal Cancer Screening: What to Expect」を課題に演習しました。知っていますか？シリーズ「がんのリスク要因」を受講者（JAMTチーム）で翻訳し、今後サイトにアップする予定です。

4. 監修者から

JAMT設立 10周年に当たって一言

産業医科大学第２外科（呼吸器・胸部外科）　田中文啓（たなか　ふみひろ）

JAMT設立10周年おめでとうございます。このような貴重な組織を10年間にわたって運営されてきた関係者の方に深く敬意を表します。

私は肺癌や胸膜中皮腫に対する手術を主に手掛ける呼吸器外科医ですが、手術だけで治癒する患者さんは決して多くないことから、手術前後の薬物療法やその効果を予測するバイオマーカーの研究を20年以上前から行ってきました。研究開始当初は、薬物療法は細胞障害性薬剤のみでありまたバイオマーカーも実用性には乏しかったのですが、近年は免疫チェックポイント阻害剤やドライバー変異陽性肺癌に対する標的薬剤等の様々な薬剤が導入され進行肺癌や中皮腫の予後も改善しつつあります。

このような時代に大切なことは、患者さんや家族が正しい医学情報を入手して、担当医とともに個々の患者さんに適した治療を選択してくことです。インターネットやテレビ等には多くの医療情報が氾濫していますが、中には確たる根拠に基づかない治療や、場合によってはむしろ有害な治療も含まれており、患者さんや家族にとっては、その中から正しい情報を選択することは難しいと思います。

そのような中で、エビデンスに基づいた海外の最新情報を日本語で得られるJAMTは極めて意義の高い活動であると思います。翻訳のお手伝いをして感じることは、日本語でも難解な分子生物学や医学用語をいかに平易な日本語として伝えることの難しさで、時には英語の原文の忠実な翻訳では文意が十分に伝わらないときの訳語の選択には苦労すると同時に私にとっても大変勉強になります。今後も可能な限りJAMT活動のお手伝いをさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

「これからの医療翻訳者に求められるもの」

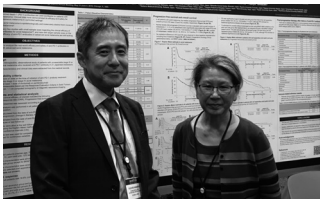
理学博士（分子生物学）／医療翻訳者・講師　北丸綾子

私が監訳のお手伝いをさせていただくようになってから、早いもので10年目となりました。学生時代に父が白血病になりましたが幸運にも治癒した経験から、分子生物学の知識や翻訳力でJAMTの活動に貢献したいとの思いでお手伝いを始めました。ロンドンでの生活が長くメールだけのお付き合いが数年続きましたが、帰国後は医療翻訳ワークショップや抄読会に登壇させていただき、スタッフの皆さまやボランティア翻訳者の方々、ときにはがんサバイバーの方々にもお目にかかる機会を得ました。仕事や子育てもありJAMTの活動に専念することはできませんが、JAMTを通して自分のペースで細く長く社会貢献できることは、とてもありがたいと思っております。

2018年11月と19年8月に抄読会の講師を務めさせていただきました。前期・後期と続けて受講してくださった方々もおられました。8月の抄読会は開講1年目の最終回でしたが、毎月新しい知識を学び、翻訳力の向上に励みながら1年を過ごしてこられた受講生の飛躍的な進歩が感じられ、大変嬉しく思います。

10月に日本翻訳連盟主催の翻訳祭に参加しました。翻訳祭は翻訳業界における学術集会のようなものです。そこで話題となったのは、機械翻訳の台頭により、機械がかなり流暢な訳文を出力する時代になったことです。現状ではまだ訳抜けや誤訳もあり、人の手によるチェックが欠かせません。また、機械翻訳では一文ずつ訳すため、前後の文や段落とのつながりを意識した訳文作りは不得手です。しかし、機械が出力する訳文は、訳文だけを読んだら直すところがないくらい流暢です。これからの翻訳者には、原文と訳文をつきあわせて一語一句のレベルで解剖するくらいの緻密さと、機械翻訳の上をいく翻訳力が求められます。緻密な正確性と高い翻訳力は、患者さんや医療関係者へ正確な医療情報をお届けするJAMTの活動にも必要不可欠なものです。

今後も正確な監訳に努め、ボランティア翻訳者の皆さまの翻訳力向上に貢献できればと願っております。



<左:中村先生　右:片瀬さん>

「自身の知識のupdate、整理に大変役立っています」

埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科　中村泰大

いつも大変お世話になっております。私がJAMTより監修の機会を頂く機会となりましたのは、2018年の米国臨床腫瘍学会（ASCO）でのポスター発表で、自身のポスター前に立っていたところ、野中希様と片瀬ケイ様にポスターにお立ち寄り頂いたことに端を発します。一通りポスターの内容をお二人にご説明したところ、野中様より「ところで先生、JAMTでは皮膚科領域の先生がいなくて困っているんです！」と切り出され、何となく内容もよく分からずに監修のお仕事を引き受けることになったというのが事の経緯です。

それ以来、皮膚がん領域における最新の海外学会発表データの記事を監修する機会を頂いております。正直、「おっ、こんなデータ発表されていたんだ。やばい、知らなかったよ……」といった記事の監修依頼を頂くこともしばしばで、自身の勉強不足を恥じるとともに、監修を通じて知識をupdateさせて頂いています。翻訳者様の訳した文章を拝見するたびに、純粋な専門領域ではない英文も翻訳しなければならない状況で、よくここまで翻訳ができるものだと、プロフェッショナルなお仕事ぶりに感銘を受けております。

JAMTに参加させて頂き嬉しいことは、ASCOのような海外学会前には、「現地でお会いできるといいですね。」と出発前にご連絡を頂くことです。見知った皮膚科領域の先生方以外の日本人に異国の地で会えること、そしてそのような知己の方を得られたことは何物にも代えがたい私の人生における財産です。2019年のASCOでも運良くポスターが採択され現地で発表の機会を頂いた際にも、現地日本人ジャーナリストの片瀬ケイ様に1年ぶりに再会することができ、本当に嬉しく思いました（野中様もお越し頂いたのですが、私があいにくポスター前を離れたタイミングだったのか、お会いできなかったのが残念でした）。

JAMTの皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

2019年度がん医療の注目ワード！

[がん最前線―これらの用語を抑えよう！]　いくつ知っていますか？

1	patient and public involvement（PPI） **患者・市民参画**	2017年、日本の医療分野研究開発推進計画に、「臨床研究及び治験の実施に当たっては、その立案段階から被験者や患者の参画を促進するとともに、患者・国民への臨床研究及び治験の意義やそれが国民にもたらすメリット等についての啓発活動を積極的に推進する必要がある。」と謳われた。今後、臨床試験実施計画や倫理委員会、ガイドライン作成など幅広く、患者・一般市民が加わることが求められている。 日本医療研究開発機構（AMED）　https://www.amed.go.jp/ppi/
2	Advance Care Planning **アドバンス・ケア・プランニング、人生会議**	年齢や疾患などにより意思決定能力の低下する可能性のある状況で、今後、本人が望む生き方や受けたい医療・ケア、価値観などについて、本人、家族、医療者で、事前に話し合う課程のこと
3	Tumor Mutational Burden (TMB) **腫瘍遺伝子変異量**	がん細胞と正常細胞の遺伝子配列を比較し、がん細胞にいくつ遺伝子変異が入っているかを調べた結果、がん細胞が持っている遺伝子変異の数。単位として、百万個の塩基（メガベース）の中にいくつの遺伝子変異があるか（/Mb）で表されることが多い。
4	immunogenic **免疫原性=免疫反応を引き起こす**	一般的に，抗原が抗体の産生や細胞性免疫を誘導する性質を免疫原性と呼ぶ。多くのバイオ医薬品が医療の現場に提供され，患者が恩恵を受けているが，有効性及び安全性の観点から世界的に最も問題となっているのが免疫原性である。つまり、バイオ医薬品は抗原として作用し、治療した患者さんで抗体の産生が誘導される場合がある。
5	Photoimmunotherapy **近赤外光線免疫療法**	人体に無害な光（近赤外線）と免疫療法を組み合わせた新しい治療法。がん細胞にのみ結合する抗体と、抗体に接合された光吸収体（IR700）の薬剤を静注する。 1～2日間でこの抗体薬剤が血流をめぐって腫瘍部に届き、がん細胞と結合する。そこに近赤外線を照射すると、がん細胞に結合した抗体薬剤の光吸収体と反応し、選択的にがん細胞の細胞膜を破壊するという仕組みである。がん細胞が破壊され、消滅してしまうまでの時間は、わずか1～2分間と非常に短い。

5. 翻訳者から

「患者の自立に重要なJAMTの活動」

医療法人社団ARCWELL田園二子クリニック
東京大学大学院薬学系研究科ITHC社会連携講座　医師 中村奈緒美

乳がん治療中にJAMTを知り、6年近く翻訳ボランティアに参加させていただいています。現在は訪問診療医として在宅医療を行っていますが、もとは外科教室に所属し、乳がん検診にも携わっていました。

それでも自分の乳がんを知ったときは動揺しました。今や何らかの疾患を抱えながらも長生きできる時代です。がんも死を連想する疾患ではなく、上手く付き合っていきたいものです。研究が進み同じ癌種でも異なる性質や悪性度を持つことがわかってきました。治療法も多様です。その中で、一人一人の価値観やライフスタイルに合った病気との向き合い方は、その人自身にしか分かりません。病気を正しく知り、どのような治療が自分に一番良いか、考えることが大切です。

所属している薬学教室の取り組みの一つに、患者中心型の医薬品開発があります。患者のための医薬品開発でありながら、その専門性の高さからか患者が主人公とは言い難いと思います。海外では、非臨床の情報を見て他国の臨床試験に参加し、その新薬の効果を実証したり、家族が文献を読み漁って最終的に開発の中心メンバーになるなど、積極的な活動も知られていますが、日本では医学の専門知識だけでなく、言語の壁も存在します。

信頼できる発信源から医療情報の日本語訳を提供するJAMTの活動は、患者の自立を後押ししていると思います。この素晴らしい取り組みに関わらせていただき、大変感謝しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

「JAMTへの感謝」沼田　理

JAMTのボランティア翻訳を始めて1年も経っていませんが、最新のがん治療に関わる記事の翻訳を、現職と並行しながら自分のペースで実施できる場をいただき、大変有難いと感じています。

私は臨床薬学が専門で、海外での留学経験や製薬会社でがん領域のDI業務の経験があり、これらのスキルを活かして医学情報の翻訳業に転向することを考えていましたが、翻訳のスキルを学び、向上させる場がありませんでした。そんなときにJAMTのホームページを見つけて抄読会に参加したことがきっかけで、JAMTの活動を知り、ボランティア翻訳者に登録させていただきました。

最初は訳語の選択やスタイルガイドとの整合など、翻訳の技術面の不安が大きかったのですが、監修の先生やスタッフでも校閲があり、間違った箇所や不適切な表現は修正していただけるので、非常に心強く、自分の勉強にもなります。また、内容の点では最新のがん治療の情報を扱うため、記事の内容だけでなく周辺知識も更新する必要もあるため、やりがいも感じます。さらにJAMTの翻訳者さんは学習意欲が高い方が多く、学会や専門講座に関する情報が得られることは非常にいい刺激になっています。

今後もJAMTの活動の一助となれるよう、自身の翻訳スキルを向上させ、正しい専門情報をがん患者やその家族へ届けられるようになりたいと思いますので、引き続きよろしくお願い致します。

「JAMTの活動を誇りに思います」三宅 民子

私は13年間総合建設会社で宅地建物取引主任者として働いて退職し、13年間学生をして、そのうちの11年間はオーストラリアの大学や調理師専門学校で留学していました。大学ではBiomedical Science学部Human Biology学科（履修科目：生理学、解剖学、組織学、生化学、心理学、病理学など）を卒業した後に栄養学科に進学しましたが、2016年に家庭の事情で中退して日本に帰国しました。帰国後は治験翻訳の専門学校で翻訳技術や製薬業界の知識を得て、現在は外資系製薬会社で製品の臨床試験の翻訳をしています。

現職ではがんに関わる機会はなく、もっと自分の知識を活かしたい、がんの最先端医療についてゆきたいと思ってJAMTのボランティア翻訳に応募し、今年から活動させていただいています。

JAMTの翻訳は、自分が勉強してきたことをベースに新しい知識を取り込むことを必要とし、私が期待していた通りのやりがいのある仕事です。まだ世間一般に知られていないことをいち早く知ることができるので、好奇心がかき

たてられます。

今年6月にJAMTが出展した「ジャパン・キャンサー・サバイバーズ・デー」で、お手伝いさせていただきました。会場ではがん患者さんやご家族、がん患者さんをサポートしている団体の方々からJAMTのサイトを日頃からご利用いただき、JAMTへの感謝の言葉を直接頂戴しました。また、JAMTを初めて知っていただいた方でも、目を輝かせて帰られる姿を見て、自分がその一助となっていることに大変誇りに思いました。

6. 副理事長から

「10周年において」 副理事長 野中 希

『海外がん医療情報リファレンス』サイトの10周年（東京国際フォーラム）が記憶に新しい中、令和元年、JAMTも一般社団法人となって10周年を迎えました。こうして無事に10周年を迎えられたのも、立ち上げ当初から共に歩み支えてくださった方々、そして随時加わってくださったボランティア協力者や内外からの支援者の皆様のお蔭と感謝申し上げます。

この10周年はいうまでもなく皆様のお力添えの賜物です。

JAMTは本年も、日々携わってくださっているボランティア翻訳者、監修者の皆様、そしてカテゴリースタッフやアシスタント他の協力により、継続的に『海外がん医療情報リファレンス』での情報提供、そして、国内外の患者団体や医療関係機関、コクランジャパンなどへの翻訳協力を行ってまいりました。

私個人としては、日本癌治療学会から2年間いただいた米国臨床腫瘍学会（ASCO）アドボケート参加助成の2年目で、5月31日～6月3日シカゴへ行ってまいりました。そして、この2年間のASCO参加報告を、10月の第57回日本癌治療学会学術集会PAL（患者向け）セミナーにて発表させていただきました。

ASCO2019では、例年どおりたくさんの最新の第3相試験の結果が発表されました。

より深く広く解明されてゆくがん研究の知見と、先生方のご尽力の成果を現地で拝見できるなにより貴重な機会でした。

令和の年号とともに、日本のがん治療とケアについてもさらなる進歩と飛躍が期待され、また患者も主体的によりよい社会の構築に向けて動き始めています。日本でこれまで達成されたこと、そしていまだ課題であることをも鑑み、がん診療の向上に向け、JAMTとして時代のニーズに柔軟に対応しながら貢献を続けていきたいと10周年にあらためて思いを巡らせます。

第57回日本癌治療学会学術集会 PALポスター発表優秀賞受賞

「海外がん情報提供ボランティアサイト運営からみた日米がん情報の比較」

日時：10月24日～26日

場所：福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリンメッセ福岡

野中希　寺田真由美　粟木瑞穂　佐復純子

「海外がん医療情報リファレンス」に基づくポスター発表が優秀賞を受賞しました。発表内容は次の通りです。日頃のご協力に感謝いたします。

- Googleアナリティクスによる「海外がん医療情報リファレンス」で今年閲覧数の多かった記事、検索ワード、動画もランキングから傾向を解説
- FDA承認ニュース（新薬、新適応）の数を2015年以降分集計、2016年21記事（承認）⇒2018年50記事とFDA承認数が2倍以上に増加（大半が血液腫瘍）していること、国立がん研究センターが発表している「欧米で承認され、日本未承認の薬、適応」（大半が血液腫瘍）とを比較してその傾向を確認。
- インターネットの日本のがん情報の現状については、後藤先生、勝俣先生の研究報告を掲載。

7.スタッフから（順不同）

医療ニュース担当：山田登志子
自分も含めて、わからないことはまずインターネットで調べるのが当たり前の世の中。正確な情報を迅速に発信し続け、信頼されるサイトを目指すJAMTの翻訳はとてもやりがいがあります。これからもよろしくお願いいたします。

学会ニュース担当：青山真佐枝
監修の先生方、翻訳者の皆様には、お忙しい中ご協力いただき大変感謝しております。学会で発表される記事は、文系の私には理解が難しいものが多いですが、見事に翻訳された記事を読み、さらに先生方による専門的な監修に触れ多くのことを学ばせていただいております。今後ともよろしくお願いいたします。

学会ニュース担当：関口百合
翻訳者の方、監修の先生方には日頃より翻訳や監修にご協力いただき感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

NCIがん研究ブログ担当：林さやか
監修の先生方、翻訳者の皆様、スタッフの皆様、いつもありがとうございます。先日、10周年記念セミナーに出席しまして、皆様にお会いできてうれしかったのと同時に、とてもよい刺激を受けました。普段はネットのつながりですので、まだ参加されたことのない方は、抄読会などの機会にいかがでしょうか。

大学・施設ニュース担当：瀧井　希純
大学・施設ニュースの担当をしております。まだ入会して長くないのですがお手伝いさせていただいています。皆様からいただく翻訳文に感心してばかりです。たまに勉強会にも参加させていただいています。よろしくお願いします。

NCI動画担当：山口夏代
いつも字幕翻訳の監修・翻訳にご協力いただき、ありがとうございます。昨年は、字幕講習会に参加していただいたあと、動画1本を初めて翻訳していただいた翻訳者の方も何人かいらっしゃいました。これからもたくさんの方々に、字幕翻訳に協力していただいて、より良いものを作って行きたいと思います。

NCI薬剤情報担当：張知子
薬剤情報を担当して3年目になります。毎年多くの新薬が承認され、がん治療が日々進歩しているのを実感しています。治療薬の情報を正確かつ迅速に提供できるよう努めていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

FDAニュース担当：木村　素子
FDAニュース担当として、ニュースが公開される度に、その内容はもちろん、翻訳者の皆様、監修の先生方、スタッフの皆様とのやりとりから様々なことを学ばせていただいております。改めて御礼申し上げます。至らない点が多いですが今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

コクラン担当：佐治京子
今年もコクランの担当を通して多くのことを学ぶことができました。ご協力いただいた方々にお礼を申し上げます。そして、メールだけの方もいますが、JAMTを通して皆さんに出会えたことに感謝いたします。これからも頑張りたいと思います。

コクラン担当：大澤朋子
コクラン担当の大澤です。今年も翻訳者の皆さま、監修の先生方、お忙しい中のご協力を大変ありがとうございました。2020年も患者さんにとって有用な情報をわかりやすくお届けする一助になればと思います。

メルマガ（ダイジェスト）担当：重森玲子
2週間ごとにメルマガを発行し、読者の皆様に新着記事をお届けしております。翻訳者の方々、監修の先生方、カテゴリー担当の方々など、1つの記事に多くの方が携わられており、今年度も皆様のおかげでメルマガ読者の方々にたくさんの記事をお届けすることができました。来年度も微力ながら貢献できれば幸いです。

タイトルチェック（CC、学会ニュース、FDA/安全性情報）・投稿統括：野中希、金田澄子、佐々木真理

SNS担当：白石里香
JAMTの活動をより良く知っていただけるよう、一般的な記事のほか、コクランや動画なども投稿しています。また「週間ランキング」の中からも、興味を持っていただけそうな記事を選んでいます。みなさまからの「フォロー」と「いいね！」をお待ちしております。

事務局スタッフ
運営統括/野中希
事務局/清水栄子、川見佐知
会　計/鳥居美映子、水野恵
収益部門翻訳コーディネーター/鳥居塚千恵

「海外がん医療情報リファレンス」統一訳語　最終校正箇所 ※詳細は「統一訳語集」を参照

（英語例）	訳語統一
response	奏効 ○　　奏功 ×
cancer	「がん」で統一　全てのがん種を含むとする。
randomized	ランダム化試験 ○　無作為化試験 ×　※ただし、副詞は「無作為に」
progression free survival（PFS）	無増悪生存（期間／率）○　無憎悪生存 ×
first line therapy	初回治療、一次治療 ○　第一選択治療 ×
trial, clinical trial, studyの一部	試験、臨床試験（治験は狭義（日本で定義された新薬申請のための臨床試験）なので、サイトでは原則使用しない）ただし、「治験薬」などでは用いることもある。
participant、Patient	（原則）患者 ○
	参加者、試験登録者、患者 ○　「被験者」は使用しない。（患者が快く読める文章に配慮。）
scientist	研究者 ○　科学者 ×
author	著者 ○　執筆者 △　First author 筆頭著者、　lead author 主著者、　senior author　統括著者、上級著者
virus	・ウイルス　「イ」は小さくしない。　※遺伝子名は本来、斜体文字だが、サイトでは斜体にしていない
sign	徴候 ○　兆候 ×　（医学的文章では、signは「症状」という意味で用いられていることが多く「徴候」とする）
androgen deprivation therapy	アンドロゲン除去療法 ○　アンドロゲン枯渇療法×
～カ月　○　～ヶ月　×	
～人　○　～名　×　（～例は通常使用しないが、専門的なものなど場合に応じて可）	
・ジャーナル名　「原語」＋誌　（全米科学アカデミー紀要など、例外もあり） ・企業名　「原語」＋社　（適宜） ・人名　「原語」＋氏 ・施設名・地名はできるだけカナにする。	
さらに、われわれ、および、ならびに、したがって、おそらく、いっしょに、さまざま、おのおの、いろいろ、ように、　結論づける/裏づける、わかる＝ひらがな表記	
「　」○　「　。」×　（文末の場合は「　」。） 「　」内の最後の文章に　。をつけない。（例）「・・明らかになった」と述べた。○「・・明らかになった。」と述べた。×	
数字、アルファベット　＝半角　「」、％、（）　＝全角 通常は主に算用数字を使用する。ローマ数字を使う必要がある場合、ローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）は機種依存文字なので使用せず、（I、II、III、IV）とアルファベットで打つ。	
薬剤名の表記仕方 一般成分名（商品名）、商品名（一般成分名） 英語［日本語カナ］または　日本語カナ［英語］ カナ表記にするか英語表記にするかは、薬剤の日本での承認や、一般にカナで通用しているかどうかによる。 日本未承認でカナ表記する薬剤の場合は、初出時に英語表記も入れる。 （例）vismotegib［ビスモテギブ］（Erivedge［エリベッジ］）　→順序逆もあり	

～阻害剤⇒阻害薬	「薬」を用いることが増えている
cancer care	がんケア○　　がん治療×　（Careは治療以外も含む）
Overall Response Rate（ORR）	奏効率○　　全奏効率×（同じ意味なので「奏効率」でよい）
aggressive cancer	悪性度の高いがん○
	侵襲性の強いがん×
minimally invasive surgery	低侵襲手術
sponsor（試験の）	治験依頼者、「スポンサー」と訳さない
	参考　http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~utdpm/jscpt/jscpt07-08.pdf
to develop cancer	がんが発生する・がんを発症する○
	がんが発現する×
subsequent studies	事後解析
neoantigen	ネオアンチゲン（新抗原）
oncofirtility	がん・生殖医療
ESMO annual meeting	欧州臨床腫瘍学会（ESMO）年次総会、またはESMO2019
ASCO annual meeting	米国臨床腫瘍学会（ASCO）年次総会、またはASCO2019

FDA承認された新薬ニュースの一覧　2019年1月～2019年12月まで

	ニュースタイトル
2019年1月	FDAが肝細胞がんにカボザンチニブ（販売名：CABOMETYX）を承認
2月	FDAがメラノーマの術後補助療法にペムブロリズマブ（販売名：キイトルーダ）を承認
	FDAが胃および胃食道接合部腺がんにトリフルリジン・チピラシル（販売名：ロンサーフ）を承認
	FDAが乳がんにトラスツズマブ＋ヒアルロニダーゼ合剤（販売名：Herceptin Hylecta）を承認
3月	FDAが進展型小細胞肺がんにアテゾリズマブ（販売名：テセントリク）を承認
4月	FDAが非小細胞肺がん（TPS ≥1％）一次治療にペムブロリズマブ（販売名キイトルーダ）の適応を拡大
	FDAが転移尿路上皮がんにエルダフィチニブ（販売名：BALVERSA）を迅速承認
	FDAが進行腎細胞がんにペムブロリズマブ（販売名：キイトルーダ）＋アキシチニブを承認
5月	FDAがIDH1変異のある急性骨髄性白血病にイボシデニブ（販売名：Tibsovo）を承認
	FDAが早期乳がんにトラスツズマブ エムタンシン（販売名：カドサイラ）を承認
	FDAが肝細胞がんにラムシルマブ（販売名：CYRAMZA）を承認
	FDAが腎細胞がんにアベルマブ（販売名：バベンチオ）＋アキシチニブを承認
	FDAが白血病（CLL）および小リンパ球性リンパ腫にベネトクラックス（販売名：VENCLEXTA）を承認
	FDAがPIK3CA変異を有する進行乳がんにアルペリシブ（販売名：PIQRAY）を承認
	FDAが濾胞性リンパ腫および辺縁帯リンパ腫にレナリドミド（販売名：REVLIMID®）を承認
	FDAがFLT3変異白血病薬ギルテリチニブ（販売名：XOSPATA）の添付文書に生存データを追加
6月	FDAが頭頸部扁平上皮がんの一次治療にペムブロリズマブ（販売名：キイトルーダ）を承認
	FDAがびまん性大細胞型B細胞リンパ腫にポラツズマブベドチン［Polatuzumab Vedotin-piiq］（販売名：POLIVY）を承認
	FDAが転移小細胞肺がんにペムブロリズマブ（販売名：キイトルーダ）を承認
	FDAが自家幹細胞移植非適応の多発性骨髄腫にダラツムマブ（販売名：DARZALEX）を承認
7月	FDAが再発・難治性多発性骨髄腫にselinexor［セリネクソール］（販売名：XPOVIO）を迅速承認
	FDAが非転移性、去勢抵抗性前立腺がんにダロルタミド（販売名：NUBEQA）を承認
	FDAが進行食道扁平上皮がんにペンブロリズマブ（販売名：キイトルーダ）を承認
8月	FDAが腱滑膜巨細胞腫にペキシダルチニブ（販売名：TURALIO）を承認
	FDAが特定の遺伝子陽性固形がんおよび非小細胞肺がんにエヌトレクチニブ（販売名：ROZLYTREK）を承認
9月	豪州、カナダ、米国で進行子宮内膜がんにペムブロリズマブ（販売名：キイトルーダ）＋レンバチニブ（販売名：レンビマ）を同時承認
	FDAが転移を伴う去勢感受性前立腺がんにアパルタミド（販売名：ERLEADA）を承認
	FDAが移植に適格な多発性骨髄腫にダラツムマブ（販売名：DARZALEX）を承認
10月	FDAがHRD陽性進行卵巣がんにニラパリブ（ZEJULA）を承認
11月	FDAがマントル細胞リンパ腫にザヌブルチニブ（販売名：BRUKINSA）を迅速承認
	FDAが白血病（CLL）と小リンパ球性リンパ腫にアカラブルチニブ（販売名：CALQUENCE）を承認
12月	FDAが転移を有する非扁平上皮非小細胞肺がんにアテゾリズマブ（販売名：テセントリク）＋ナブパクリタキセル＋カルボプラチンを承認
	FDAが転移を伴う去勢感受性前立腺がんにエンザルタミド（販売名：XTAND）を承認
	FDAが転移尿路上皮がんにエンホルツマブ ベドチン（販売名： PADCEV）を迅速承認
	FDAがBRCA変異卵巣がんの一次治療薬にオラパリブ（販売名：キイトルーダ）を承認

8.事務局からのお知らせ

（事務局　Email:office@jamt-cancer.org）

●2019年 会計報告（1月～12月）

JAMTオフィシャルサイトへ3月中に掲載予定です。

●書籍・テキスト販売

- **米国国立がん研究所(NCI)ガイドブック**
  「がん治療後の生活」　400円
  「がんの臨床試験（治験）ハンドブック」 500円
  以上の冊子販売をしています。
  ご希望の方は事務局までお知らせください。
- **医療翻訳講座テキスト 会員のみ特別販売**
  定価5,000円→会員特別価格2,000円（税抜）

販売代金のお振込先はこちらです。
（会費振込先とは別口座になります）
【振込先】三菱UFJ銀行
【支店】仙川支店
【口座番号】普通　0072693
【名義】一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ
シャ）ニホンガンイリョウホンヤクアソシエイツ

●医療翻訳講座

通信講座（基礎入門講座・基礎実践講座）受付中
お問い合わせは事務局office@jamt-cancer.orgまで

2020年度継続年会費 お手続きのお願い

次年度は2020年4月1日から2021年3月31日となります。会費につきましては2020年3月25日までにお振込みをお願いいたします。ボランティア翻訳者会員の方は継続年会費4,000円（がん患者ご本人は半額）です。
（会員資格についてはJAMT ホームページ〈会員登録と寄付〉をご確認ください）
【振込先】ゆうちょ銀行　記号 10030 番号 78505391
一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ
他金融機関からの振込みの際は
[店名]〇〇八（読みゼロセロハチ）
[店番]008　[預金種目]普通預金　[口座番号]7850539
＊ 退会をご希望の場合は、その旨必ずメールで事務局までご連絡をお願いします。引き続きみなさまのお力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

9.組織概要

名称	一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ
所在地	〒160-0022　東京都新宿区新宿2-15-22 Landwork新宿ビル8F
連絡先	office@jamt-cancer.org TEL/FAX 03-3356-5710
設立年度	2009年4月1日　一般社団法人
ボランティア翻訳所属メンバー（2020年1月現在）	ボランティア翻訳者：105 名 監修者：54 名

- JAMT オフィシャルサイト　https://jamt-cancer.org/
- 海外がん医療情報リファレンス　https://www.cancerit.jp/
- Twitter アカウント　JAMT：@jamt_cancer
  海外がん医療情報リファレンス：@cancer_ref
- Facebook ページ　JAMT：jamtforcancer
  海外がん医療情報リファレンス：cancerreference
  医療翻訳講座：@jamtfortranslators

理事　理事長　久保田 馨
医師／日本医科大学付属病院 がん診療センター長
副理事長　野中 希
医療翻訳者、医学ライター
理事　東　光久
医師／福島県立医科大学　白河総合診療アカデミー
白河厚生総合病院総合診療科
理事　後藤 悌
医師／国立がん研究センター　呼吸器内科
理事　佐復 純子
医療翻訳者

監事　監事　久賀田 郁子　著述業
監事　尾崎 昭子

10.広告協賛企業（順不同）

「海外がん医療情報リファレンス」の運営支援をいただいた企業様に厚く御礼申し上げます。

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
MSD 株式会社
日本化薬株式会社
中外製薬株式会社
日本イーライリリー株式会社
大鵬薬品工業株式会社
小野薬品工業株式会社

発行：一般社団法人　日本癌医療翻訳アソシエイツ　Japan Association of Medical Translation for Caner (JAMT)
東京都新宿区新宿2-15-22　Landwork新宿ビル８Ｆ　TEL/FAX 03-3356-5710
Email:office@jamt-cancer.org　公式HP:https://jamt-cancer.org/
2020年2月／第11号